

三重大で公開シンポジウム 四日市公害の教訓と アジアの国際環境協力



パネル討論で話す伊藤名誉教授(左)と朴教授

9月29日、10月1日、三重大学で行われた「日本地理学会2017秋季学術大会」で、四日市公害訴訟判決45周年公開シンポジウム「四日市公害の教訓とアジアの国際環境協力」が開催された。

同大学で日本地理学会が開催されるのは31年ぶり。今年は、四日市公害訴訟判決45周年の節目の年であることから、同シンポジウムが一般公開で9月30日に実施された。冒頭、森智広四日市市長らが挨拶。第1部では同大の人文学部教授・地域ECOシステム研究センター長の朴恵淑氏、伊藤達雄同大名誉教授、四

日市公害の語り部・四日市公害訴訟原告の野田一さんらが様々なテーマで語った。続く第2部はアジア諸国の環境問題に関する研究発表。

第3部では「四日市公害の教訓とアジアの国際環境協力」をテーマにパネル討論が行われ、「企業も教育機関もまず絶対やらなければいけないのが、人財育成」などの意見が交わされた。中学生や各分野の専門家など様々な立場の人が、このテーマについて共に考える貴重な機会となった。

朴氏によると今後、シンポジウムの内容をまとめ、行政・企業・学会・一般という幅広い対象に向けて「四日市公害の教訓をふまえて行うべき施策」を提案する予定。